

令和 6 年 5 月 8 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00597

研究課題名（和文）大規模生体データを用いたAIによる個人・集団レベルの創造性に関する実証研究

研究課題名（英文）The study of creativity at individual and group levels using large scale biological data

研究代表者

原田 勉（HARADA, Tsutomu）

神戸大学・経営学研究科・教授

研究者番号：20294192

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 28,400,000円

研究成果の概要（和文）：個人や集団の学習特性を主に行動データを用いて推計し、それらの学習特性が創造性にどのように影響を及ぼしているのかについて明らかにしたのが本研究の成果である。特に個人や集団のリスク特性や活用・探索比率といった学習特性が創造性に大きく影響を及ぼしていることが明らかになった。したがって、創造性を高めるためには、これらの特性を促進する環境を整備する必要がある。なかでも、低コストでリスクなく実験を繰り返すことができるバーチャル環境の整備が個人・組織レベルでの創造性を規定する主要な要因であることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、創造性の規定要因について、個人・集団レベルで実験データを用いた厳密な定量分析を実施し、それらの規定要因を明らかにした点に学術的意義がある。特に、Q学習モデルを用い、行動データ、生体データをもとに学習特性等を推計し、その特性が創造性にどのように影響を与えるのかを明らかにした点で、従来の先行研究と比較しても独自性があるものと考えられる。これらの研究成果を踏まえ、企業レベルでは事例分析にもとづき、創造性やイノベーションを高めるための具体的な手法を提案しており、出版した書籍は多くの実務家に一定の反響を生み出しており、社会的意義も大きいものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study estimated the learning characteristics of individuals and groups, mainly using behavioral data, and examined how these learning characteristics affect creativity. In particular, it was revealed that learning characteristics such as individual and group risk attitudes and exploitation/exploration ratio have a significant effect on creativity. Hence, it would facilitate creativity to create an environment that promotes these characteristics. In particular, we argued that the development of a virtual environment that allows low-cost and risk-free experiments is instrumental in improving creativity at the individual and organizational levels.

研究分野：戦略論、イノベーション・マネジメント、認知心理学、イノベーション経済学

キーワード：創造性 洞察問題解決 計算論的アプローチ イノベーション 組織マネジメント Q学習モデル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

企業の持続的競争優位や成長にとって継続的なイノベーションの遂行は必要不可欠である。このような視点から、経済学、経営学の両分野においてイノベーションに関する研究は数多く積み重ねられてきている。私たちもイノベーション確率最大化基準という観点からイノベーションの分析を行ってきた (Harada, 2019)。しかしながら、先行研究ではイノベーション関数の媒介変数となる、個人・集団レベルの創造性に対する認知特性、集団力学の影響についての厳密な検証は行われていない。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は、個人・集団レベルの創造性に対する認知特性、集団力学の影響について厳密な実験、手法、モデルにしたがって定量的に分析することにある。本研究では 1. 個人レベルの創造性、2. 集団レベルの創造性、を明確に区分し、各々の規定要因を脳神経データや脈波、顔表情といった生体データ・レベルで AI 評価システム、特に強化学習モデルを通じて厳密に明確化しようとしている点にその主要な特徴がある。本研究では、個人・集団レベルでの創造性を規定する認知的要因、集団力学を明らかにし、大規模生体データを用いたニューロ・イノベーション・マネジメントという新たな学問領域の開拓を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、毎年 200 ~ 400 名程度の大規模実験を実施し、認知課題を通じた認知特性、学習特性の測定を行い、一部、グループ実験を取り入れ集団力学の影響も検討した。また、生体データとして、脳波計測、fMRI による脳神経データの収集も実施した。

各年度計画

1 年目 ~ 5 年目：毎年参加者 200 名程度 (個人実験、グループ実験を実施する)

それに加え、fMRI 計測を用いた課題解決時の脳賦活領域の特定を行う

研究体制・役割分担

研究体制は、イノベーション・マネジメント班 (伊藤・原田)、組織論班 (鈴木・松嶋・平野)、計算・実験班 (原田・日置・陳)、生体ビッグデータ班 (滝口・古和、山本) から構成され、研究全体は原田が統括・調整する。は実験やそのデータ解析を中心に作業を行い、その結果を踏まえ、は各々、イノベーション・マネジメント、組織論の観点から分析する。

は、滝口、古和が神戸大学内で推進している PAD データベース (認知症患者のデータベース) と本研究で収集するデータとの連携を模索する。その際、古和は医学的見地から実験全体や生体データの解析に関する助言を行う (図 4 参照)。

なお、小川、松本は他大学へ転出となったためこの研究プロジェクトに参加することが難しくなりメンバーから外れた。また、生理学研究所の小池は当初は参加メンバーではなかったが、同研究所の fMRI 実験を実施するには MRI 装置へのアクセスや独自の脳神経データ解析技術が必要であり、途中から参加となった。しかし、小池は 2023 年度から理科学研究所へと転籍となったため、生理学研究所で研究チームを組んでいた同研究所の山本が後任として同年度から加わった。

4 . 研究成果

創造性モデル

本研究では、Q学習モデルを採用し、それを実験状況に合わせて改良することで独自のモデルを構築・提案してきた。われわれはいくつかのモデルのバージョンを開発したが、最終的には、Harada (2020)で提案した基本モデルに収束していった。このモデルでは、強化学習におけるQモデルにプロスペクト型効用関数を取り込んだものであり、それにより学習率、リスク態度、活用・探索比率を実験データから推計することが可能となった。このモデルを用いて創造性の規定要因を明らかにした。

個人レベルでの創造性の規定要因

まず、脳波計測を実施して明らかになったのは、(1)創造性は言語性ワーキングメモリにポジティブに影響されている、(2)分析的能力は空間性ワーキングメモリにポジティブに依存している、(3)創造性はP300の振幅度の大きさにマイナスの影響を受けている、(4)創造性と分析的能力には統計的には何ら関係性が存在しない、(5)創造性および分析的能力の下位カテゴリーのなかでは、創造性は分析的能力にマイナスの影響を受けている一方、分析的能力は創造性から何ら影響を受けていない、という点である。

さらに、学習特性や感情がどのような影響を及ぼすのかに関しては、(1)拡散思考(DT)は活用および探索がともに正で有意であることがわかる一方、収束思考(CT)はそれらに影響を受けていないことが明らかになった。(2)DTについては気分バイアス、CT、活用では気分が各々マイナスの影響を及ぼしているのに対し、探索では気分バイアスが正で有意であることが明らかになった。探索には気分のバイアスが必要であり、それを原動力として現状の枠組みを逸脱した学習行動をとっていることがわかる。一方、活用やDT、CTは、気分や気分バイアスの影響を受けている。しかし、それらはより冷静で客観的な気分であることが求められていることが明らかになった。

集団レベルでの創造性の規定要因

次にわれわれは個人レベルでの創造性の規定要因ではなく、集団レベルでの創造性がどのような要因によって左右されるのかを検証した。具体的には、個人に加え、集団としてダイアド(2名)、トライアド(3名)、テトラッド(4名)のグループをつくり、かれらに共通して認知課題に取り組んでももらうことで学習特性や集団規模自体が集団でのパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを検討した。

まず、個人、ダイアド、トライアドの間のTAB課題のスコアを比較した研究では、ダイアドのパフォーマンスが低く、逆に個人、トライアドのパフォーマンスが高いU字型の成果カーブ(縦軸成果、横軸グループ規模)が描かれることが明らかになった。これは、グループ規模が奇数の場合は多数決で選択が明確に行われやすいのに対し、偶数の場合は多数決でも決定できない可能性が高く(特にダイアドの場合は意見が一致しなければ決定できない)こうしたダイアドにおける意思決定の不安定さ、学習非一貫性がこのような結果になったものと推測された。それに加え、トライアド、テトラッドを比較した研究も実施し、ここでも奇数であるトライアドのパフォーマンスがテトラッドよりも高くなることが明らかになった。

これらの結果を踏まえ、次に、個人、ダイアド、トライアドの間において創造性スコアがどのような学習特性によって影響を受けるのかを検討した。その結果、次のような点が明らかになった。まず、個人、トライアドは、正の報酬に対して各々、リスクテイク、リスク回避が有意であ

ることが明らかになった。一方、ダイアドでは、リスク態度は拡散思考に何ら影響を及ぼしていないことがわかった。それに加え、逆温度は、個人では正、トライアドでは負で有意の影響を及ぼしていた。したがって、リスクテイク（回避）と活用（探索）は各々セットで有意である、リスク態度と逆温度のバランスが拡散思考にとっては重要であることが明らかになった。ダイアドでは、学習非一貫性が十分な拡散思考を生み出すため、リスクテイクや逆温度が有意な影響を及ぼしていないものと解釈できたのである。

組織レベルでの創造性の規定要因

上記のような個人レベル、集団レベルでの創造性規定要因の研究に加え、より規模の大きな組織レベルで創造性をどのように促進することができるのかについても検討を加えた。

まず意思決定スタイルとして多くの日本企業ではPDCA (plan, do, check, action) サイクルが採用されている。それに対し、われわれはOODA ループという概念に着目し、それを体系的に解説した古典的名著の翻訳に取り組み出版した（リチャーズ著・原田訳、2019）。さらにこれを発展させた著作を出版した（原田、2020）。また、OODA ループを適用する際に、創造への重要なヒントとなる逸脱事例の体系的調査の重要性を強調したポジティブデビアンسについても着目し、これらは主に開発途上国で適用され成果を上げているアプローチであるのに対し、企業事例でも活用可能なことを示すため、その原著を翻訳して出版した（スターニン他著・原田訳、2021）。

さらに、これらのOODA ループやポジティブデビアンスを統合し、企業戦略において効果的に適用するために有益な枠組みであるパリュベース戦略についても注目し、それを体系的に解説した書籍を翻訳し出版した（オーバーホルツァ - ジー著・原田訳、2023）。これらの3つのアプローチを統合することで組織における創造性を開発していくことができるというのがわれわれの結論である。

この点をさらに具体化するため、われわれは具体的な問題状況をバーチャル化することの重要性を認識し、バーチャル環境を整備することが重要であるという結論に至った。これにより、個人レベル、集団レベル、組織レベルでの研究成果を統合できると考えている。このバーチャル化の議論についてはまだ作業中であり、今年度中になんらかの成果にまとめたいと考えている。

fMRI 研究

以上の研究に加え、われわれは生理学研究所との共同研究を実施し、fMRI 検査を行い、脳神経データの収集を試みた。個人レベルの実験では、創造性課題を被験者に解いてもらい、解答がわかった瞬間にボタンを押してもらい、その瞬間の前後でどの脳神経部位が活性化しているかを分析し、デフォルトモードネットワークにある脳神経部位が活性化していることがわかった。これは認知課題が言語的課題、図形的課題であっても共通しており、モダリティに関わりなく得られた結果である。それに加え、2名の被験者をfMRI装置でつなぎ、モニター上でコミュニケーションをとりながら同様の実験を行った。このデータの解析作業はまだ終了していない。

このようにfMRIを用いた生体データと創造性の関係を脳神経基盤のレベルで明らかにすることにも取り組んでいる。現在、個人レベルの実験結果は論文としてほぼ完成しており、今年度中には海外の学術誌に投稿予定である。2名のコミュニケーションデータについても、年内には解析は終わらせたいと希望している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計57件（うち査読付論文 35件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 Chen Xunquan, Xu Xuexin, Chen Jinhui, Zhang Zhizhong, Takiguchi Tetsuya, Hancock Edwin R.	4. 巻 -
2. 論文標題 Speaker-Independent Emotional Voice Conversion via Disentangled Representations	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 IEEE Transactions on Multimedia	6. 最初と最後の頁 1~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/TMM.2022.3222646	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kumagai Ryoko, Osaki Tohmi, Oki Yutaro, Murata Shunsuke, Uchida Kazuaki, Encho Haruhi, Ono Rei, Kowa Hisatomo	4. 巻 104
2. 論文標題 The Japan-Multimodal Intervention Trial for Prevention of Dementia PRIME Tamba (J-MINT PRIME Tamba): Study protocol of a randomised controlled multi-domain intervention trial	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104803 ~ 104803
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2022.104803	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Harada Tsutomu	4. 巻 13
2. 論文標題 Exploring the effects of risk-taking, exploitation, and exploration on divergent thinking under group dynamics	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2022.1063525	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kowa Hisatomo, Uchimura Maki, Ohashi Asuka, Hiroe Mamoru, Ono Rei	4. 巻 14
2. 論文標題 Self Assessment Memory Scale (SAMS), a new simple method for evaluating memory function	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Aging Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnagi.2022.1024497	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sekiya Hiroaki, Tsuji Asato, Hashimoto Yuki, Takata Mariko, Koga Shunsuke, Nishida Katsuya, Futamura Naonobu, Kawamoto Michi, Kohara Nobuo, Dickson Dennis W., Kowa Hisatomo, Toda Tatsushi	4. 巻 10
2. 論文標題 Discrepancy between distribution of alpha-synuclein oligomers and Lewy-related pathology in Parkinson's disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Acta Neuropathologica Communications	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40478-022-01440-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kojima Shinsuke, Kikuchi Takashi, Kakei Yasumasa, Kowa Hisatomo, Yamamoto Yasuji, Kajita Hiroyuki, Osaki Tohmi, Fukushima Masanori, Kayano Ryoma, Nagai Yoji	4. 巻 20
2. 論文標題 Implication of using cognitive function-related simple questions to stratify the risk of long-term care need: population-based prospective study in Kobe, Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Health Research Policy and Systems	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12961-022-00920-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 129
2. 論文標題 【1ページでわかる内科疾患の診療ノート-"あたりまえ"のなかにある大事な視点】(第8章)神経 Alzheimer 病	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 内科	6. 最初と最後の頁 916 ~ 919
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 86(10)
2. 論文標題 【認知症施策up to date】学際的な認知症予防プロジェクト 神戸大学の取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 825 ~ 833
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 110(5)
2. 論文標題 【認知症を取り巻く現状:バイオマーカー、根本治療薬ってなに?】認知症と社会体制 現状と将来への問題点 認知症「神戸モデル」の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 診断と治療	6. 最初と最後の頁 645 ~ 648
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴 白順, 大上 哲也, 櫻林 哲雄, 古和 久朋, 徳田 真, 小野 玲, 中野 高広, 山上 徹也, 前田 潔	4. 巻 36(2)
2. 論文標題 認知機能簡易測定ツール「脳活バランサーCogEvo」の有効性についての予備的検討 地域在住高齢者および医療機関受診者を対象として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Dementia Japan	6. 最初と最後の頁 332 ~ 335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Xunquan Chen, Atsuki Oshiro, Jinhui Chen, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Phoneme-guided Dysarthric Speech Conversion With Non-parallel Data by Joint Training	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Signal, Image and Video Processing	6. 最初と最後の頁 1 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11760-021-02119-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa E, Koike T, Sumiya M, Shimada K, Makita K, Yoshida H, Yokokawa H, Sadato N	4. 巻 15
2. 論文標題 The Neural Correlates of Semantic and Grammatical Encoding During Sentence Production in a Second Language: Evidence From an fMRI Study Using Structural Priming	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 753245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2021.753245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashiguchi M, Koike T, Morita T, Harada T, Denis Le Bihan, Sadato N	4. 巻 166
2. 論文標題 Neural substrates of accurate perception of time duration: A functional magnetic resonance imaging study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychologia	6. 最初と最後の頁 108145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuropsychologia.2022.108145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakano T., Chihara N., Matoba K., Tachibana, H., Okuda, S., Otsuka, Y., Ueda, T., Sekiguchi, K., Kowa, H., Leyboldt, F., Wandinger, K. P., & Matsumoto, R	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 Immunotherapy-responsive Non-paraneoplastic Encephalitis with Antibodies against GAD, LGI1, and GABAA Receptor.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Internal medicine	6. 最初と最後の頁 419 ~ 423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.7846-21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 36(1)
2. 論文標題 【共生社会の実現に向けて】神戸市の目指す認知症の人にやさしいまちづくり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Dementia Japan	6. 最初と最後の頁 113 ~ 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gang-Hoon Seo, Munehiko Itoh, Zhonghui Li	4. 巻 13
2. 論文標題 Strategic Communication and Competitive Advantage: Assessing CEO Letters of Global Airline Alliances	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Foundations of Management	6. 最初と最後の頁 57 ~ 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2478/fman-2021-0005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsutomu Harada	4. 巻 16 (6)
2. 論文標題 Three heads are better than two: Comparing learning properties and performances across individuals, dyads, and triads through a computational approach	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Plos One	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0252122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsutomu Harada	4. 巻 11 (1)
2. 論文標題 Examining learning coherence in group decision-making: triads vs. tetrads	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-00089-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshioka A, Tanabe HC, Sumiya M, Nakagawa E, Okazaki S, Koike T, Sadato N	4. 巻 16(12)
2. 論文標題 Neural Substrates of Shared Visual Experiences: A Hyperscanning fMRI Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Cognitive and Affective Neuroscience_	6. 最初と最後の頁 1264~1275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/scan/nsab082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagai Y, Kojima S, Kowa H, Yamamoto Y, Kajita H, Osaki T, Kakei Y, Kothari KU, Kayano R.	4. 巻 11(6)
2. 論文標題 Kobe project for the exploration of newer strategies to reduce the social burden of dementia: a study protocol of cohort and intervention studies.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e050948
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2021-050948	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸子敬仁・平野光俊	4. 巻 48
2. 論文標題 残業時間と働きがいの関係 - ワークエンゲージメントとワークプレッシャーに着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本経営学会誌	6. 最初と最後の頁 31～41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木竜太	4. 巻 46
2. 論文標題 経営学におけるローカルな研究の可能性に関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本経営学会誌	6. 最初と最後の頁 32～40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jinhui Chen, Ryouichi Takashima, Xingchen Guo, Zhihong Zhang, Xuexin Xu, Tetsuya Takiguchi, Edwin R. Hancock	4. 巻 115
2. 論文標題 Multimodal Fusion for Indoor Sound Source Localization	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pattern Recognition	6. 最初と最後の頁 1～12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.patcog.2021.107906	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsutomu Harada	4. 巻 11
2. 論文標題 Mood and Risk-Taking as Momentum for Creativity	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.610562	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 香坂千佳子・伊藤宗彦	4. 巻 DP2021-J05
2. 論文標題 センサー企業オプテックス社のIoTビジネス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸大学経済経営研究所ディスカッションペーパー	6. 最初と最後の頁 1～14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasai S, Koike T, Sugawara SK, Hamno YH, Sumiya M, Okazaki S, Takahashi HK, Taga G, Sadato N	4. 巻 224
2. 論文標題 Frequency-specific task modulation of human brain functional networks: a fast fMRI study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuroimage	6. 最初と最後の頁 117375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2020.117375	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa E, Sumiya M, Koike T, Sadato N	4. 巻 225
2. 論文標題 The neural network underpinning social feedback contingent upon one's action: An fMRI study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuroimage	6. 最初と最後の頁 117476
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2020.117476	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshino H, Kowa H, Maeda K, Takechi H	4. 巻 21
2. 論文標題 Eight months observation of check-up system 'Kobe dementia model' of dementia in Kobe City	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 246～248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12649	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murata S, Ono R, Yasuda H, Tanemura R, Kido Y, Kowa H	4. 巻 24
2. 論文標題 Effect of a Combined Exercise and Cognitive Activity Intervention on Cognitive Function in Community-dwelling Older Adults: A Pilot Randomized Controlled Trial	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Physical Therapy Research	6. 最初と最後の頁 112 ~ 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1298/ptr.E10057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 73(1)
2. 論文標題 傍腫瘍性神経症候群	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BRAIN and NERVE	6. 最初と最後の頁 13 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1416201708.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsutomu Harada	4. 巻 15
2. 論文標題 The effects of risk-taking, exploitation, and exploration on creativity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Plos One	6. 最初と最後の頁 1 ~ 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0235698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsutomu Harada	4. 巻 11
2. 論文標題 Learning From Success or Failure? ?Positivity Biases Revisited	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.01627	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小池耕彦	4. 巻 39(1)
2. 論文標題 ハイパースキャニングを用いたコミュニケーションの神経基盤の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Psychonomic Science	6. 最初と最後の頁 96 ~ 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14947/psychono.39.16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gang-Hoon, SEO and Itoh,M.	4. 巻 12(15)
2. 論文標題 Perceptions of Customers as Sustained Competitive Advantages of Global Marketing Airline Alliances: A Hybrid Text Mining Approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 6258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su12156258	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 67
2. 論文標題 早期診断のさらなる前進に向けて 認知症診断助成制度~神戸モデル~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 クリニシアン	6. 最初と最後の頁 452 ~ 457
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾崎遠見・熊谷諒子・古和久朋・前田潔	4. 巻 31(12)
2. 論文標題 進行期の認知症のデイケアと在宅ケア 重度認知症患者デイケアの役割と利用実態	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 1295 ~ 1301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 認知機能低下が疑われる高齢市民における要介護状態発生リスクの定量化研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知症の最新医療	6. 最初と最後の頁 70～73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田勉	4. 巻 61
2. 論文標題 OODAループ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IEレビュー	6. 最初と最後の頁 63～69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野光俊・勝又あずさ	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 健康増進施策とキャリア開発支援の補完的連携－戦略的人的資源管理の視点から－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業カウンセリング研究	6. 最初と最後の頁 27～38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seki T, Kanagawa M, Kobayashi K, Kowa H, Yahata N, Maruyama K, Iwata N, Inoue H, and Toda T.	4. 巻 295
2. 論文標題 Galectin 3-binding protein suppresses amyloid- production by modulating -cleavage of amyloid precursor protein	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Biol Chem	6. 最初と最後の頁 3678～3691
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/jbc.RA119.008703	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsushima, N., Urano, M., and Sayers, J.	4. 巻 2020・11
2. 論文標題 The tentative argument of spatial management in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Graduate School of Business Administration Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1～16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zhaojie Luo, Jinhui Chen, Tetsuya Takiguchi, and Yasuo Ariki	4. 巻 27(10)
2. 論文標題 Emotional Voice Conversion Using Dual Supervised Adversarial Networks With Continuous Wavelet Transform F0 Features	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech and Language Processing	6. 最初と最後の頁 1535～1548
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/TASLP.2019.2923951	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Chikako Kohsaka, Kakuro Ka, and Munehiko Itoh	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 The Perceived Risks of Online Apparel Shopping: Comparing Japanese and Chinese Consumers Who Shop at Uniqlo Online	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Japanese Operations Management and Strategy	6. 最初と最後の頁 1～17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤宗彦	4. 巻 220(4)
2. 論文標題 地域ブランド形成 - 1次産業の6次産業化 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 21～36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本陽一・伊藤宗彦	4. 巻 DP2019-J05
2. 論文標題 鐘淵紡績における工場経営 - 1904年から1913年までの鐘紡資料をもとに -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学経済経営研究所ディスカッションペーパー	6. 最初と最後の頁 1~7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gang-Hoon SEO, and Munehiko Itoh	4. 巻 10(3)
2. 論文標題 Trends of Corporate Mission Statements: From pursuing profit to distinctive and social value	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 HOLISTICA-Journal of Business and Public Administration	6. 最初と最後の頁 27~36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松嶋登・矢寺顕行・浦野充洋・吉野直人・貴島耕平・中原翔・桑田敬太郎・高山直	4. 巻 39
2. 論文標題 社会物質性のメタ理論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本情報経営学会誌	6. 最初と最後の頁 80~117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田敬太郎・松嶋登	4. 巻 220
2. 論文標題 イノベーション・エコシステムの進化：科学技術イノベーションの経営学に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 23~48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸野早希・松下将章・市村陽亮・大矢隆紀・鈴木竜太	4. 巻 220
2. 論文標題 上司の家族支援的行動とオーセンティック・リーダーシップの関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 15～36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田勉	4. 巻 16
2. 論文標題 OODAループによる イノベーション・マネジメントへの挑戦	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究開発リーダー	6. 最初と最後の頁 50～53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田勉	4. 巻 69
2. 論文標題 創造的人材の条件	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 商工金融	6. 最初と最後の頁 5～16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Ishiura, Shota Shibata, Jun Yoshimura, Yuta Suzuki, Wei Qu, Koichiro Doi, M. Asem Almansour, Junko Kanda Kikuchi, Makiko Taira, Jun Mitsui, Yuji Takahashi, Yaeko Ichikawa, Tatsuo Mano, Atsushi Iwata, Yasuo Harigaya, Miho Kawabe Matsukawa, Takashi Matsukawa, Masaki Tanaka, Hisatomo Kowa et al.	4. 巻 51
2. 論文標題 Noncoding CGG repeat expansions in neuronal intranuclear inclusion disease, oculopharyngodistal myopathy and an overlapping disease	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nat Genet.	6. 最初と最後の頁 1222～1232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41588-019-0458-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akatani R, Chihara N, Tachibana H, Koto S, Kowa H, Kanda F, Matsumoto R, and Toda T.	4. 巻 35
2. 論文標題 Validation of the Guy's Neurological Disability Scale as a screening tool for cognitive impairment in multiple sclerosis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Mult Scler Relat Disord	6. 最初と最後の頁 272 ~ 275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.msard.2019.08.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujio H, Inokuchi G, Kuroki S, Tatehara S, Katsunuma S, Kowa H, and Nibu KI.	4. 巻 47
2. 論文標題 Three-year prospective study on olfaction of patients with Parkinson's disease	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 899-904
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2019.08.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 123
2. 論文標題 Parkinson病患者に亜急性に出現した意識および歩行障害	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内科	6. 最初と最後の頁 847 ~ 849
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15106/j_naika123_847	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古和久朋	4. 巻 39
2. 論文標題 神戸から始める認知症の人にやさしいまちづくり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高次脳機能研究	6. 最初と最後の頁 218 ~ 221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩坪威・秋山治彦・古和久朋	4. 巻 37
2. 論文標題 認知症の早期発見と予防にむけて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 カレントセラピー	6. 最初と最後の頁 806～813
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計48件 (うち招待講演 14件 / うち国際学会 21件)

1. 発表者名 山名 莉央, 北条 直樹, 矢野 肇, 滝口 哲也, 高島 遼一, 中川 誠司
2. 発表標題 EEGNetを用いた脳磁界データによる想起時の音声識別の検討
3. 学会等名 日本音響学会第149回 (2023年春季) 研究発表会講演
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 K. Ogasawara, T.Koike, M. Fukunaga, A. Yoshioka, & N. Sadato
2. 発表標題 Neural substrates of performance failure under psychological pressure: a 7T-fMRI study
3. 学会等名 KUCM-YUCM-YUCD-NIPS joint symposium (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kowa, Hisatomo
2. 発表標題 A Study of the Usefulness of Self-Assessment Memory Scale (SAMS) for the Elderly in the Community
3. 学会等名 AD/PD? 2023 Alzheimer's & Parkinson's Diseases Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平野光俊
2. 発表標題 日本型人事管理における人的資本情報の特徴とその開示の課題
3. 学会等名 2022年度日本知的資産経営学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kowa, Hisatomo
2. 発表標題 Self Assessment Memory Scale, a new simple method for evaluating memory function
3. 学会等名 INS2023 国際神経心理学会議（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Munehiko Itoh
2. 発表標題 Digital transformation of Sports Technology-The Case of Asics
3. 学会等名 The 6th World Conference on Production and Operations Management ? P&OM 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小笠原香苗，小池耕彦，福永雅喜，吉岡歩，定藤規弘
2. 発表標題 高プレッシャー下での運動パフォーマンス低下の神経基盤：7テスラMRIを用いた検討
3. 学会等名 生理研研究会「スポーツからみる日常と非日常の神経生理学」（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小笠原香苗, 小池耕彦, 福永雅喜, 吉岡歩, 定藤規弘
2. 発表標題 Neural substrates of choking under pressure ? A 7T-MRI study
3. 学会等名 第45回日本神経科学大会 (Neuro2022)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小笠原香苗, 小池耕彦, 福永雅喜, 吉岡歩, 定藤規弘
2. 発表標題 高プレッシャー下での運動パフォーマンス低下の神経基盤: 7テスラMRIを用いた検討
3. 学会等名 第6回ヒト脳イメージング研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 K. Ogasawara, T.Koike, M. Fukunaga, A. Yoshioka, & N, Sadato
2. 発表標題 Neural substrates of performance failure under pressure - A 7T-fMRI study.
3. 学会等名 Society for Neuroscience (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田 勉
2. 発表標題 グループにおけるリスク、活用、探索の創造性に対する影響 - 計算論的アプローチ -
3. 学会等名 2022年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kowa, Hisatomo
2. 発表標題 Social Implementation of Dementia Prevention based on the J-MINT PRIME Tamba Study
3. 学会等名 The 17th International Symposium on Geriatrics and Gerontology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古和 久朋
2. 発表標題 認知症の早期診断を可能とする医療体制の整備
3. 学会等名 第41回日本認知症学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古和 久朋
2. 発表標題 呼吸ケア・リハに携わる方が知っておきたい認知症のあれこれ
3. 学会等名 第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古和 久朋
2. 発表標題 アルツハイマー病疾患修飾薬の実用化に向けて
3. 学会等名 第11回日本認知症予防学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 古和 久朋
2. 発表標題 J-MINT PRIME Tamba研究と“コグニケア”活動から社会実装を考える
3. 学会等名 第64回日本老年医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rio Yamana, Hajime Yano, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Seiji Nakagawa
2. 発表標題 MEG Source Localization Using Deep Prior
3. 学会等名 IEEE LifeTech 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山名莉央・矢野肇・高島遼一・滝口哲也・中川誠司
2. 発表標題 深さ重みを考慮したDeep Priorによる電流源推定
3. 学会等名 日本音響学会2022年春季研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田勉
2. 発表標題 三人集まれば文殊の智慧？ - グループダイナミクスへの計算論的アプローチ -
3. 学会等名 2021年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Xuexin Xu, Liang Shi, Jinhui Chen, Xunquan Chen, Jie Lian, Pingyuan Lin, Zhihong Zhang, Edwin R. Hancock
2. 発表標題 Two-Pathway Style Embedding for Arbitrary Voice Conversion
3. 学会等名 Interspeech 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小池耕彦
2. 発表標題 二者間での情報共有の神経基盤の解明：ハイバースキャニングfMRIを用いて Hyperscanning fMRI to reveal the neural basis of sharing information
3. 学会等名 第5回ヒト脳機能イメージング研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小池耕彦
2. 発表標題 他者との情報共有に関する神経基盤：二者同時記録MRIを用いた研究
3. 学会等名 行動科学・実装科学セミナー 第5回行動科学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小笠原香苗・小池耕彦・定藤規弘
2. 発表標題 プレッシャーが明示的な運動制御精度と力みに与える影響
3. 学会等名 日本認知科学会第38回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小笠原香苗・小池耕彦・定藤規弘
2. 発表標題 プレッシャーが力みとパフォーマンス低下に及ぼす影響
3. 学会等名 第10回日本情動学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ono R, Kowa H, Oki Y, Osaki T, Murata S, Kumagai R, Uchida K, Yasuda H, Kido Y.
2. 発表標題 Baseline characteristics in Japan-multimodal intervention Trial for prevention of dementia (J-MINT) Tamba Study.
3. 学会等名 Alzheimer's Association International Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古和久朋・小野玲・沖侑太郎・尾寄遠見・村田峻輔
2. 発表標題 多因子生活習慣介入による認知症予防 ハイリスク高齢者に対する多因子介入による認知症予防
3. 学会等名 第40回日本認知症学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古和久朋
2. 発表標題 認知症初期集中支援チームの課題と将来 こうべオレンジチームの現状と課題
3. 学会等名 第40回日本認知症学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 熊谷諒子・古和久朋
2. 発表標題 地域高齢者の認知症に関する受診意欲の調査
3. 学会等名 第40回日本認知症学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸野早希・平野光俊
2. 発表標題 働き方改革の推進に伴う育成における上司と部下の関わり方の変容に関する研究
3. 学会等名 日本労務学会第50回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田勉
2. 発表標題 創造性規定要因への計算論的アプローチ - 創造性、活用・探索および気分 -
3. 学会等名 2020年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桑田敬太郎・原拓志・松嶋登
2. 発表標題 放射光施設が形成する社会物質的エコシステム
3. 学会等名 科学技術社会論学会第19回年次研究大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Koike T
2. 発表標題 Hyperscanning fMRI studies to reveal neural basis of eye-to-eye communication.
3. 学会等名 Neurosync 2020 (online conference) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古和久朋
2. 発表標題 レビー小体型認知症における認知機能障害の特徴と治療
3. 学会等名 第61回日本神経学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sekiya H, Kowa H, Hashimoto Y, Takata M, Matsumoto R, Toda T.
2. 発表標題 Difference in distribution between alpha synuclein oligomers and Lewy bodies in Parkinson's disease brain
3. 学会等名 MDS Virtual congress 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ono R, Uchida K, Kawajarada R, Kido Y, Yasuda H, Kowa H
2. 発表標題 Usefulness of the self-reported Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System-21 items (DASC-21) in the community-dwelling elderly
3. 学会等名 Alzheimer's Association International Conference 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 W. Zhuang, T. Hascoet, R. Takashima, T. Takiguchi, and Y. Ariki
2. 発表標題 Optimizing the computational efficiency of 3D segmentation models for connectomics
3. 学会等名 26th International Workshop on Frontiers of Computer Vision (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 H. Sekiya, H. Kowa, Y. Hashimoto, M. Takata, R. Matsumoto, T. Toda
2. 発表標題 Discrepancy of the distribution of alpha-synuclein oligomers and Lewy bodies in Parkinson's disease brain
3. 学会等名 3rd Pan American Parkinson's Disease and Movement Disorders Congress (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hisatomo Kowa, Asuka Ohashi, Maki Uchimura, Rei Ono, Yoshiaki Kido
2. 発表標題 The feasibility of ADCS-PACC as a community-based cognitive screening for the Japanese old people
3. 学会等名 The International Neuropsychological Society 48th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松嶋登
2. 発表標題 構築主義が取り戻す経営学 (統一論題セッション)
3. 学会等名 組織学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田 勉
2. 発表標題 個人レベルの創造性を規定する要因に関する実証分析
3. 学会等名 組織学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 T. Hascoet, Q. Fevre, W. Zhuang, Y. Ariki, and T. Takiguchi
2. 発表標題 Layer-wise invertibility for extreme memory cost reduction of CNN training
3. 学会等名 IEEE ICCV Neural Architects Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤宗彦・北中英明・香坂千佳子
2. 発表標題 ホテル利用客の満足度に対するテキキストマイニングによる分析
3. 学会等名 経営情報学会春季研究大会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野光俊
2. 発表標題 非正規の基幹化と正規の多様化-雇用ポートフォリオのあり方をめぐって-
3. 学会等名 日本経営学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Cattani, G., Matsumoto, Y. Shimizu, H., and Sugiyama, Y.
2. 発表標題 Natural Experiments Approach in Historical Management Studies: Asian Perspective
3. 学会等名 79th Annual Meeting of the Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川功一・松本陽一
2. 発表標題 データサイエンスで大切な問題に取り組む
3. 学会等名 組織学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroaki Sekiya, Hisatomo Kowa, Hinako Koga, Mariko Takata, Wataru Satake, Naonobu Futamura, Itaru Funakawa, Kenji Jinnai, Motonori Takahashi, Takeshi Kondo, Yasuhiro Ueno, Motoi Kanagawa, Kazuhiro Kobayashi, and Tatsushi Toda
2. 発表標題 Wide distribution of alpha-synuclein oligomers in multiple system atrophy brain detected by proximity ligation
3. 学会等名 American Academy of Neurology 2019 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisatomo Kowa, Rei Ono, Shunsuke Murata, Hisafumi Yasuda, Rumi Tanemura, and Yoshiaki Kido
2. 発表標題 A cross-over randomized controlled trial of short-term multicomponent exercise program conducted among community-dwelling healthy elderly people
3. 学会等名 Alzheimer's Association International Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroaki Sekiya, Hisatomo Kowa, Yuki Hashimoto, Mariko Takata, Riki Matsumoto, and Tatsushi Toda
2. 発表標題 Widespread distribution and abundant accumulation of alpha-synuclein oligomers in multiple system atrophy brain
3. 学会等名 23rd International Congress of Parkinsons Disease and Movement Disorders (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 西谷 公孝, 國本 光正, 加島 美和, 伊藤 宗彦 (編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 407
3. 書名 鐘紡資料叢書 社長訓示編 第10巻	

1. 著者名 伊藤宗彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 248
3. 書名 イノベーション・マネジメント	

1. 著者名 上林憲雄, 小松章, 平野光俊, 他23名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 SDGsの経営学 - 経営問題の解決に向けて -	

1. 著者名 西谷 公孝, 國本 光正, 加島 美和, 伊藤 宗彦 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 251
3. 書名 鐘紡資料叢書 社長訓示編 第9巻	

1. 著者名 伊藤宗彦・松尾博文・富田純一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 碩学舎	5. 総ページ数 241
3. 書名 1からのデジタル経営	

1. 著者名 Noboru Matsushima, Akiyuki Yatera, Mitsuhiro Urano, Naoto Yoshino, Shunsuke Hazui, Sho Nakahara, Kohei Kijima, Keitaro Kuwada, Tadashi Takayama	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 89
3. 書名 Materiality in Management Studies: Development of the Theoretical Frontier	

1. 著者名 原田順子・平野光俊編著、分担執筆者三輪卓己・野村佳子 (分担執筆: 第1章「企業経営と人的資源管理」11-30頁、第2章「日本型人事管理の進化」31-51頁、第4章「社員格付け制度」73-90頁、第7章「キャリア開発」129-146頁、第10章「雇用区分の多元化と雇用ポートフォリオ」183-200頁)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 283
3. 書名 改訂新版人的資源管理 - 理論と実践を架橋する -	

1. 著者名 伊藤篤史・笠田竜太・金子俊郎・福田努・小池耕彦・坂本貴和子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 マイナビ出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 機動戦士ガンダム 宇宙世紀vs.現代科学	

1. 著者名 上林憲雄・清水泰洋・平野恭平編著、分担執筆者平野光俊、他23名（分担執筆：第6章「社会人大学院設立と展開」） 109-118頁	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 255
3. 書名 経営学の開拓者たち - 神戸大学経営学部の軌跡と挑戦 -	

1. 著者名 角谷建耀知・阿部康二・森下竜一・古和久朋・河田康志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アスコム	5. 総ページ数 239
3. 書名 長生きでも脳が老けない人の習慣	

1. 著者名 小川進	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白桃書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 世界標準研究を発信した日本人経営学者たち	

1. 著者名 パスカル・スターニン・スターニン (原田勉訳・解説)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 407
3. 書名 POSITIVE DEVIANCE (ポジティブデビアンズ)	

1. 著者名 塚原東吾・松嶋登・桑田敬太郎・岩西竜一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 神戸STS研究会	5. 総ページ数 152
3. 書名 神戸のSTS: スプリング8をめぐるサイエンス・ベースド・イノベーション研究と低線量被曝の歴史研究	

1. 著者名 原田勉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 247
3. 書名 OODA MANAGEMENT (ウーダ・マネジメント)	

1. 著者名 伊藤宗彦・國本光正・加島美和 (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 285
3. 書名 鐘紡資料叢書-株主総会編 第6巻	

1. 著者名 伊藤宗彦・國本光正・加島美和（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 295
3. 書名 鐘紡資料叢書-株主総会編 第5巻	

1. 著者名 伊藤宗彦・國本光正・加島美和（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 293
3. 書名 鐘紡資料叢書-株主総会編（第4巻）	

1. 著者名 伊藤宗彦・國本光正・加島美和（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 375
3. 書名 鐘紡資料叢書-株主総会編（第3巻）	

1. 著者名 伊藤宗彦（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 275
3. 書名 鐘紡資料叢書-株主総会編（第2巻）	

1. 著者名 伊藤宗彦（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 神戸大学経済経営研究所	5. 総ページ数 331
3. 書名 鐘紡資料叢書-株主総会編（第1巻）	

1. 著者名 Tsutomu Harada	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 279
3. 書名 Economics of an Innovation System	

1. 著者名 上林憲雄・平野光俊編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同文館出版	5. 総ページ数 237
3. 書名 日本の人事システム：その伝統と革新	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平野 光俊 (HIRANO Mitsutoshi) (10346281)	大手前大学・現代社会学部・教授 (34503)	
研究分担者	松嶋 登 (MATSUSHIMA Noboru) (10347263)	神戸大学・経営学研究科・教授 (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 哲也 (YAMAMOTO Tetsuya) (40530366)	生理学研究所・脳機能計測・支援センター・特任助教 (63905)	
研究分担者	滝口 哲也 (TAKIGUCHI Tetsuya) (40397815)	神戸大学・都市安全研究センター・教授 (14501)	
研究分担者	陳 金輝 (CHEN Jinhui) (50777810)	和歌山大学・システム工学部・准教授 (14701)	
研究分担者	古和 久朋 (KOWA Hisatomo) (60396728)	神戸大学・保健学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	日置 孝一 (HIOKI Koichi) (60509850)	神戸大学・経営学研究科・経営学研究科研究員 (14501)	
研究分担者	鈴木 竜太 (SUZUKI Ryuta) (80295568)	神戸大学・経営学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	伊藤 宗彦 (ITOH Munehiko) (90362798)	大手前大学・経営学部・教授 (34503)	
研究分担者	小池 耕彦 (KOIKE Takahiko) (30540611)	生理学研究所・システム脳科学研究領域・助教 (63905)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 進 (OGAWA Susumu) (80214021)	神戸大学・経営学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	松本 陽一 (MATSUMOTO Yoichi) (00510249)	慶應義塾大学・商学部（三田）・准教授 (32612)	削除：2020年9月18日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関